

ひとの*ちから
CLOSE UP



モトクロスライダー

畑尾 樹璃さん

11月5日(土)、6日(日)。HSR九州(菊池郡大津町)。降り続く雨音をかき消すように、エンジン音が低く響き渡っていました。2011年全国モトクロス選手権シリーズ第9戦九州大会が行われました。

三中学校の三年生です。5歳でキッズクロスを始め、小学4年生から全日本選手権シリーズのレディースに参戦。今年は初めて全戦に出場し、8月の第5戦(スポーツランドSUGO/宮城県)で3位を獲得し、初の表彰台に昇りました。

「このときの走りは良かったです」と振り返る畑尾さん。しかし予選は決して満足のいく走りではありませんでした。落ち込んでいた畑尾さんを奮起させたのは、別のライダーの家族がかけたくれた言葉でした。

「支えてくれる人たちに感謝してアクセルを開け、走りなさい」
スポンサーやチームの皆さん、そして家族や友人など多くの人に支えられ、大好きなモトクロスを続けてきた畑尾さん。さまざまな人の顔を心に描き、決勝では会心の走りを見せ3位入賞。続く9月の第6戦(名阪スポーツランド/奈良県)でも3位となり、ランキングを押し上げました。

全国トップレベルの選手である畑尾さんは、現役中学生。普段はランニングや筋トレを行い、週末にコース練習を実施。練習やレースには、家族からは必ず父・亮治さんが付き添い、サポートします。

今回のHSR九州での第9戦には、荒尾から家族、知人や友人が応援に駆けつけました。その力も得て、予選では3位の成績を収めた畑尾さん。翌日の決勝は雨と泥によるエンジントラブルで途中棄権。しかし気持ちは既に、次の最終戦(11月19日・20日、オフロードヴィレッジ/埼玉県)に向いていと笑顔で話しました。



はたお じゅり ●1996年生まれ、倉掛区在住。荒尾第三中学校三年生。「ジャンプを跳ぶのが一番気持ち良いです。速い人を見習って、カッコいい走りを目指しています」

1 決勝のスタートを待つ。背後には友人たちからの熱い応援メッセージ。サポートしてくれるのはメカニックの山崎義也さん。2 予選で見せたジャッキと通過。3 決勝レースの終了直後、初優勝を果たした同級生で友人でもある延永若菜さん(福岡県/左)を祝福する畑尾さん(右)



[1-3] 写真提供…大津町役場 辻口浩二氏